

学校研究計画

I 研究主題

主体的に考え、学び合う子の育成

～「～たい」が生まれる子どもが主役の国語科の授業を目指して～

2 主題設定の理由

本校の教育目標は、「笑顔あふれる向本折っ子の育成」であり、目指す児童像を「つよく やさしく かしい子」として児童、教職員、家庭・地域が連携して学校づくりを進めている。

昨年度は、国語科の研究3年目として「主体的に考え、学び合う子の育成」を研究主題に、児童の主体性と友達の関わり合いを大切にしながら、児童の読む力の向上を目指し研究に取り組んできた。説明的文章を中心に、個別最適な学びと協働的な学びを通して読む力を増やすよう進めてきた。その中で成果と課題は次の通りである。（○…成果、▲…課題）

- 教師は単元の目標とゴールを確認し、そのためにどのような力や読みが必要なのかを考え、児童と共に単元計画を立てることができた。
- 児童は3年間の積み上げもあり、自分たちで単元計画を立てようとする意識が高くなっている。児童とともにつくった学習計画や、既習内容を教室に掲示することで、児童が単元の見通しを持って学習に取り組んだり、前時に学んだことをもとにして考えたりすることができた
- 児童の考えの形成の場面でのゲットタイムが浸透し、考えを持つことができるようになった。考えを形成するために、教師は学習形態を選んだり、教具を選んだりする機会を作ることを意識し、児童も自ら選ぶことができるようになった。

- ▲単元構想、その実施はできたが、一人ひとりに力がついたかどうかの検証が不十分であった。
- ▲教師は児童が考えを広げる声かけは行えたが、考えを深めるための問い返しが十分でなかった。
- ▲「子どもに委ねる」授業イメージの共通理解が十分でなかったため、教師主導の授業が見られた。

以上の成果と課題を受けて、今年度は、研究主題を「主体的に考え、学び合う子の育成～「～たい」が生まれる子どもが主役の国語科の授業を目指して～」とする。授業を通して、思考を深め合う児童を目指して昨年度と同様に国語科を中心として、学校研究を推進していく。子どもたちが学習に対して興味を持ち、主体的に取り組むためには、「もっと考えたい」「もっと知りたい」「もっと読みたい」「もっと話したい」という「～たい」という気持ちを引き出すような授業が求められる。そのために、単元構成シートをもとに教材研究に取り組み、子どもに委ねる場面や付けたい力を明確にし、授業に臨めるよう研究を進めていきたい。また、児童が安心して自分の考えを伝え合うことのできるあたたかな学級づくりや、学びの土台を支える基礎基本の力をつけることを合わせて組織的に取り組んでいく。